

1 「令和3年度全国学力・学習状況調査」の結果の概要について

(1) 「令和3年度全国学力・学習状況調査」実施状況の概要

本年5月27日(木)に調査を実施。調査の対象は、全国の小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年・特別支援学校小学部第6学年、中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年・中等教育学校第3学年・特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒。

○教科に関する調査として、国語、算数・数学の調査を、質問紙調査として、児童生徒及び学校を対象に生活習慣や学習環境等についての調査を実施

○本県の調査実施校は、公立小学校等756校(648校)、公立中学校等363校(310校)、合計1,119校(958校) ※()内は、千葉市を除いた数

(2) 教科に関する結果の概要

○教科に関する調査(平均正答数及び平均正答率)において、本県公立学校の結果は、全国平均と比較して小学校国語、同算数及び中学校国語は同等の状況である。中学校数学については、全国平均に比べ平均正答率が1.2ポイント(1.2ポイント)低い状況であり、継続的に課題がみられる。児童生徒の正答数の分布状況は全国の状況とほぼ同等である。 ※()内は、千葉市を除いた数

令和3年度教科区別調査結果(平均正答数及び平均正答率)

※平均正答数及び平均正答率の上段(白)は、千葉県(千葉市を含む)、()内は、千葉県(千葉市を除く)下段(網掛け)は、全国(公立)を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)	中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.0 (9.0)	65 (64)	国語 <全14問>	9.1 (9.0)	65 (64)
	9.1	64.7		9.0	64.6
算数 <全16問>	11.3 (11.2)	70 (70)	数学 <全16問>	9.0 (8.9)	56 (56)
	11.2	70.2		9.1	57.2

*文部科学省からの発表に基づき、平成28年度からは、県の平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

【参考】平均正答率の前回教科別調査結果との比較 (%)

小学校		令和3年度	令和元年度 ※参考	中学校		令和3年度	令和元年度 ※参考
国語	千葉県	65	63	国語	千葉県	65	72
	全国	64.7	63.8		全国	64.6	72.8
	差	0.3	▲0.8		差	0.4	▲0.8
算数	千葉県	70	66	数学	千葉県	56	58
	全国	70.2	66.6		全国	57.2	59.8
	差	▲0.2	▲0.6		差	▲1.2	▲1.8

<小学校国語>※（ ）内は平均正答率

問題形式別 資料P11

短答式…2.8ポイント高（全国70.6% 千葉県73.4%）

記述式…2.3ポイント低（全国40.2% 千葉県37.9%）*引き続きの課題

全国より平均正答率が高い設問

2一「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する」

1.7ポイント高（全国77.6% 千葉県79.3%）

3三（1）ウ「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」

10.7ポイント高（全国54.4% 千葉県65.1%）

全国より平均正答率が低い設問 資料P12

2四「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」

1.5ポイント低（全国29.7% 千葉県28.2%）

3二「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」

4.2ポイント低（全国56.6% 千葉県52.4%）

<中学校国語>※（ ）内は平均正答率

問題形式別 資料P13

選択式…0.6ポイント高（全国63.9% 千葉県64.5%）

記述式… 同等 （全国56.0% 千葉県56.0%）

全国より平均正答率が高い設問

3一「文脈の中における語句の意味を理解する」

1.5ポイント高（全国43.7% 千葉県45.2%）

4二「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」

1.6ポイント高（全国74.0% 千葉県75.6%）

全国より平均正答率が低い設問 資料P14

2一「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く」

1.4ポイント低（全国24.8% 千葉県23.4%）

無解答率が10%以上の設問 ※（ ）内は無解答率

3四「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」

2.0ポイント高（全国24.1% 千葉県26.1%）

<小学校算数>※（ ）内は平均正答率

問題形式別 資料P15

短答式…0.7ポイント高（全国75.8% 千葉県76.5%）

記述式…0.7ポイント低（全国53.0% 千葉県52.3%）

全国より平均正答率が高い設問

2（1）「三角形の面積の求め方について理解している」

2.6ポイント高（全国55.1% 千葉県57.7%）

2（2）「複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる」

1.3ポイント高（全国72.5% 千葉県73.8%）

無解答率が10%以上の設問 資料P16 ※（ ）内は無解答率

3（4）「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる」1.1ポイント高（全国10.3% 千葉県11.4%）

4（3）「小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる」1.4ポイント高（全国10.3% 千葉県11.7%）

<中学校数学>※（ ）内は平均正答率

問題形式別 資料P17

選択式…1.1ポイント低（全国52.4% 千葉県51.3%）

記述式…1.2ポイント低（全国35.0% 千葉県33.8%）

全国より平均正答率が高い設問

6（1）「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる」

0.8ポイント高（全国83.9% 千葉県84.7%）

無解答率が10%以上の設問 資料P18 ※（ ）内は無解答率

6（3）「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる」5.1ポイント高（全国29.9% 千葉県35.0%）

8（3）「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」5.3ポイント高（全国32.2% 千葉県37.5%）

(3) 質問紙調査に関する結果の概要

○「主体的・対話的で深い学び」に関する調査

【児童生徒質問紙33】 資料P19

「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

児童 75.6% (H30) →76.6% (H31) →77.8% (R3) 全国78.2% (R3)

生徒 72.8% (H30) →73.5% (H31) →79.6% (R3) 全国81.0% (R3)

○「ICTの活用」に関する調査

【学校質問紙66】 資料P25

「前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか」

小学校 64.7% (H30) →76.7% (H31) →79.0% (R3) 全国86.6% (R3)

中学校 69.2% (H30) →80.7% (H31) →84.3% (R3) 全国87.8% (R3)

【学校質問紙71】 資料P26

「あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童生徒がやりとりする場面」

肯定的回答 小学校 10.4ポイント低 (全国44.7% 千葉県34.3%)

中学校 8.5ポイント低 (全国41.5% 千葉県33.0%)

「全く使用していない」小学校 5.6ポイント高 (全国14.2% 千葉県19.8%)

中学校 3.5ポイント高 (全国17.2% 千葉県20.7%)

○「臨時休校時の学習」に関する調査

【学校質問紙C2_8】 資料P31

「C1_1の期間のうち学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑧都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習」

小学校 26.3ポイント高 (全国43.1% 千葉県69.4%)

中学校 19.7ポイント高 (全国36.5% 千葉県56.2%)

(4) 今後の対応

ア 教育事務所ごとの分析と好事例の周知

市町村や学校別の特色のある取組を調査し、学力向上に特に効果をあげている取組を好事例として、学校訪問等や学力向上交流会の際に行う指導・助言に取り入れ、効果的な周知を図る。

イ 千葉県の子育て支援を反映させたリーフレットの作成

書く活動を積極的に取り入れる授業改善のアイデア例や ICT 端末の活用法を示したリーフレットを作成し、配付する。

ウ 学校で活用できる「学力向上の手引き」の作成

今年度の調査結果から得られた課題を解決する校内研修や教育課程編成の際に活用できる手引きを発行する。

引き続き、県教育委員会では、調査結果の詳細な分析を行い、具体的な改善策を示していく。

【参考】「記述を取り入れた授業×教科」に関する調査 ※（ ）内は該当学校数

【小学校学校質問紙 5 3】と教科平均別正答率のクロス集計 資料 P32

「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか」

【中学校学校質問紙 5 3】と教科別平均正答率のクロス集計 資料 P32

「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか」

・よく行った	小国 65.3% (148)	中国 64.8% (139)
・どちらかといえば、行った	63.1% (511)	63.5% (206)
・あまり行わなかった	60.6% (92)	61.1% (16)
・全く行わなかった	—	—

【学校質問紙 6 0】と教科別平均正答率のクロス集計 資料 P32

「調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行いましたか」

・よく行った	小算 70.0% (254)	中数 55.3% (125)
・どちらかといえば、行った	68.8% (443)	54.4% (197)
・あまり行わなかった	66.9% (51)	53.4% (39)
・全く行わなかった	—	58.1% (2)

2 教科区別の平均正答率等の経年変化 —教科に関する調査—

令和2年度 ※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施せず。問題配付のみ。

平成31年度（令和元年度） ※・上段（白）は、千葉県（公立）
 ・上段（白）の（ ）内は、千葉県（千葉市を除く公立）
 ・下段（網掛け）は、全国（公立）を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	8.8 (8.8)	63 (63)
	8.9	63.8
算数 <全14問>	9.2 (9.2)	66 (65)
	9.3	66.6

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全10問>	7.2 (7.2)	72 (72)
	7.3	72.8
数学 <全16問>	9.2 (9.2)	58 (57)
	9.6	59.8
*英語 <全21問>	11.7 (11.6)	56 (55)
	11.8	56.0

(参考)

*英語 (話すこと) <全5問>	1.5	30.8
------------------------	-----	------

*中学校英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の平均正答数及び平均正答率の結果を示す。

*英語の「話すこと」調査は、実施校の全国（国公立を含む）総数のみを公表し、結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を「参考値」として公表。都道府県別、指定都市別の公表は行わない。また、「話すこと」に関する問題は、原則として口述式で解答するものとなっている。

平成30年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全12問>	8.4 (8.4)	70 (70)
	8.5	70.7
国語B(活用) <全8問>	4.3 (4.3)	53 (53)
	4.4	54.7
算数A(知識) <全14問>	8.7 (8.7)	62 (62)
	8.9	63.5
算数B(活用) <全10問>	5.1 (5.0)	51 (50)
	5.1	51.5
理科 <全16問>	9.8 (9.8)	61 (61)
	9.6	60.3

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.3 (24.3)	76 (76)
	24.3	76.1
国語B(活用) <全9問>	5.5 (5.5)	61 (61)
	5.5	61.2
数学A(知識) <全36問>	23.0 (23.0)	64 (64)
	23.8	66.1
数学B(活用) <全14問>	6.4 (6.4)	46 (46)
	6.6	46.9
理科 <全27問>	17.6 (17.5)	65 (65)
	17.9	66.1

平成29年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	11.2 (11.2)	75 (75)
	11.2	74.8
国語B(活用) <全9問>	5.2 (5.1)	57 (57)
	5.2	57.5
算数A(知識) <全15問>	11.6 (11.6)	77 (77)
	11.8	78.6
算数B(活用) <全11問>	5.1 (5.0)	46 (46)
	5.1	45.9

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.4 (24.3)	76 (76)
	24.8	77.4
国語B(活用) <全9問>	6.5 (6.4)	72 (72)
	6.5	72.2
数学A(知識) <全36問>	22.6 (22.4)	63 (62)
	23.3	64.6
数学B(活用) <全15問>	7.0 (7.0)	47 (46)
	7.2	48.1

【参考】※以下、平均正答数及び平均正答率の、上段は千葉県(公立)、下段は全国(公立)を示す。

平成28年度 ※文部科学省からの依頼に基づき、平成28年度からは、県平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	10.9	73
	10.9	72.9
国語B(活用) <全10問>	5.8	58
	5.8	57.8
算数A(知識) <全16問>	12.2	77
	12.4	77.6
算数B(活用) <全13問>	6.1	47
	6.1	47.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.1	76
	25.0	75.6
国語B(活用) <全9問>	6.0	67
	6.0	66.5
数学A(知識) <全36問>	21.7	60
	22.4	62.2
数学B(活用) <全15問>	6.4	43
	6.6	44.1

平成27年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全14問>	10.0	71.5
	9.8	70.0
国語B(活用) <全9問>	5.8	64.5
	5.9	65.4
算数A(知識) <全16問>	12.0	74.7
	12.0	75.2
算数B(活用) <全13問>	5.9	45.1
	5.9	45.0
理科 <全24問>	14.9	61.9
	14.6	60.8

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.1	76.0
	25.0	75.8
国語B(活用) <全9問>	5.9	65.7
	5.9	65.8
数学A(知識) <全36問>	22.8	63.4
	23.2	64.4
数学B(活用) <全15問>	6.2	41.6
	6.2	41.6
理科 <全25問>	13.0	52.0
	13.3	53.0

平成26年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	11.4	75.8
<全15問>	10.9	72.9
国語B(活用)	5.5	55.5
<全10問>	5.5	55.5
算数A(知識)	13.3	78.2
<全17問>	13.3	78.1
算数B(活用)	7.6	58.8
<全13問>	7.6	58.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	25.5	79.8
<全32問>	25.4	79.4
国語B(活用)	4.7	51.7
<全9問>	4.6	51.0
数学A(知識)	24.0	66.7
<全36問>	24.3	67.4
数学B(活用)	9.0	60.1
<全15問>	9.0	59.8

平成25年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	11.1	61.9
<全18問>	11.3	62.7
国語B(活用)	5.0	50.1
<全10問>	4.9	49.4
算数A(知識)	14.7	77.1
<全19問>	14.7	77.2
算数B(活用)	7.7	59.4
<全13問>	7.6	58.4

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	24.4	76.2
<全32問>	24.4	76.4
国語B(活用)	6.1	68.1
<全9問>	6.1	67.4
数学A(知識)	22.7	63.2
<全36問>	22.9	63.7
数学B(活用)	6.6	41.5
<全16問>	6.6	41.5

平成24年度

※平成22年度、平成24年度は抽出調査のため、平均正答率については、誤差も含めた数値の幅「平均正答率の95%信頼区間」で示している。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	13.9	80.9 - 82.3
<全17問>	13.9	81.4 - 81.7
国語B(活用)	6.3	56.4 - 58.3
<全11問>	6.1	55.4 - 55.8
算数A(知識)	14.0	72.6 - 74.5
<全19問>	13.9	73.1 - 73.5
算数B(活用)	7.8	59.3 - 61.3
<全13問>	7.7	58.7 - 59.1
*理科	15.0	61.8 - 63.3
<全24問>	14.6	60.8 - 61.1

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	24.0	74.3 - 75.5
<全32問>	24.0	75.0 - 75.2
国語B(活用)	5.7	62.9 - 64.2
<全9問>	5.7	63.2 - 63.4
数学A(知識)	22.1	60.5 - 62.2
<全36問>	22.4	62.0 - 62.3
数学B(活用)	7.3	47.7 - 49.9
<全15問>	7.4	49.2 - 49.5
*理科	13.0	49.4 - 50.9
<全26問>	13.3	50.9 - 51.1

*理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題している。

平成23年度

※平成23年度は震災の影響で実施せず。問題の配付のみ。

平成22年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	12.5	82.7 - 84.2
<全15問>	12.5	83.2 - 83.5
国語B(活用)	7.8	77.2 - 79.2
<全10問>	7.8	77.7 - 78.0
算数A(知識)	14.1	73.1 - 75.1
<全19問>	14.1	74.0 - 74.4
算数B(活用)	6.1	49.7 - 51.7
<全12問>	5.9	49.1 - 49.5

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	26.4	74.8 - 75.9
<全35問>	26.3	75.0 - 75.2
国語B(活用)	6.7	65.8 - 67.3
<全10問>	6.5	65.1 - 65.5
数学A(知識)	23.0	63.0 - 64.9
<全36問>	23.3	64.4 - 64.8
数学B(活用)	6.1	42.2 - 44.3
<全14問>	6.1	43.1 - 43.5

平成21年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	12.8	71.0
<全18問>	12.6	69.9
国語B(活用)	5.1	51.3
<全10問>	5.1	50.5
算数A(知識)	14.4	79.8
<全18問>	14.2	78.7
算数B(活用)	7.9	56.3
<全14問>	7.7	54.8

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	25.3	76.8
<全33問>	25.4	77.0
国語B(活用)	8.2	74.6
<全11問>	8.2	74.5
数学A(知識)	20.3	61.6
<全33問>	20.7	62.7
数学B(活用)	8.5	56.7
<全15問>	8.5	56.9

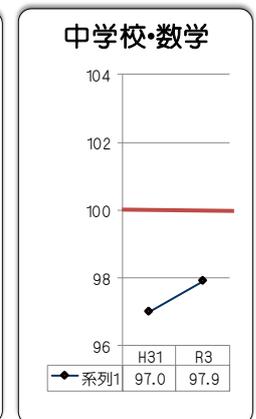
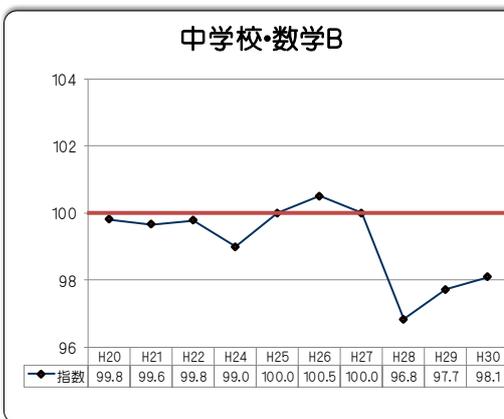
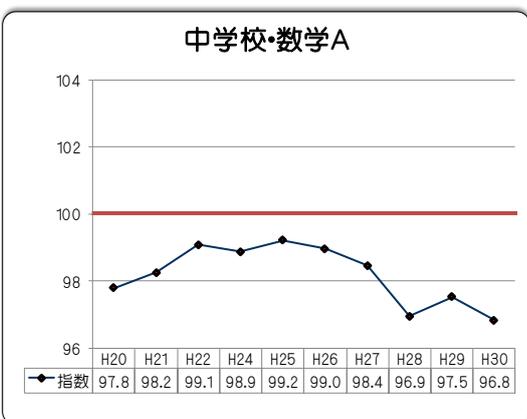
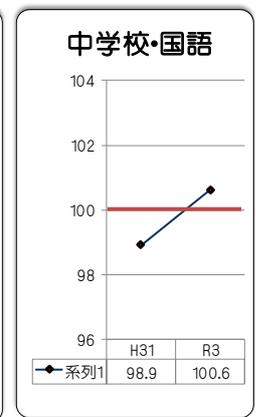
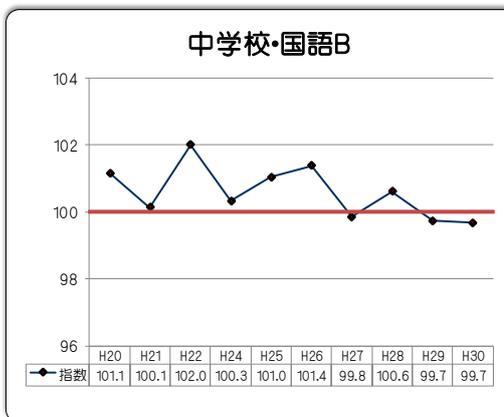
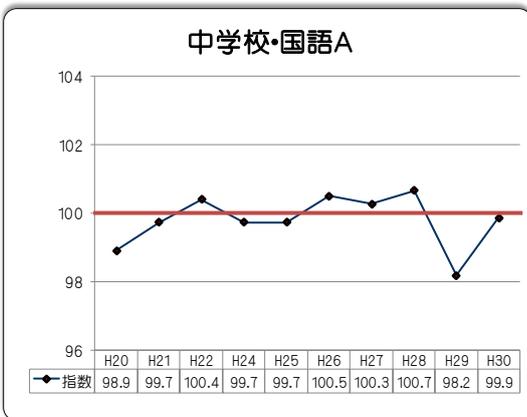
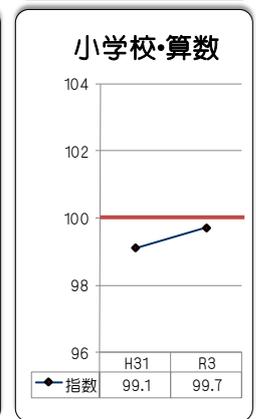
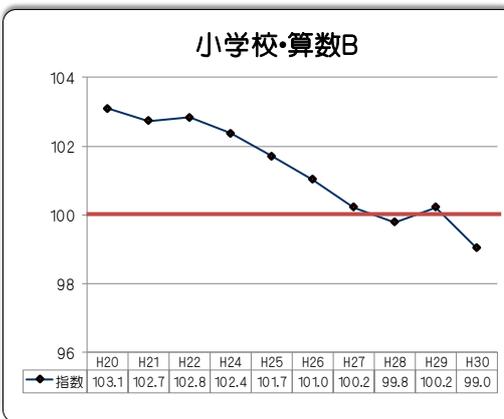
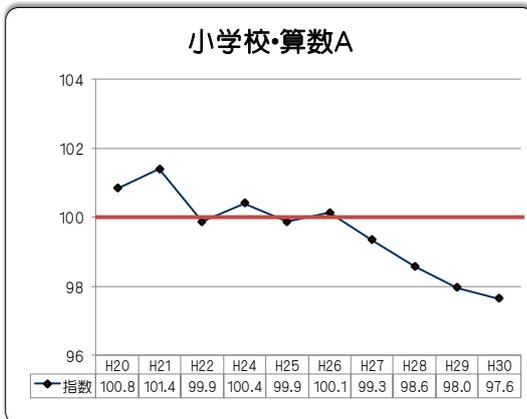
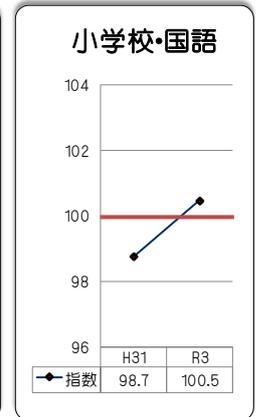
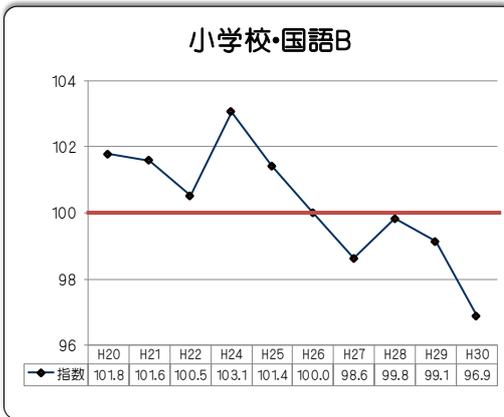
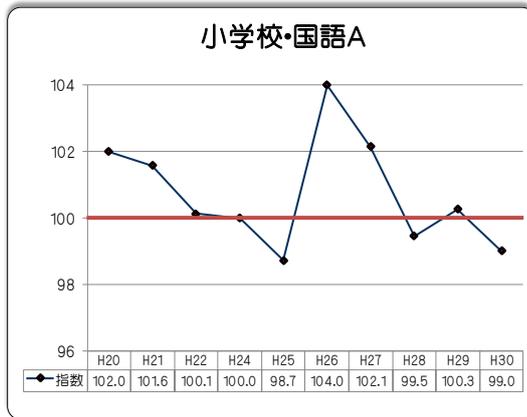
平成20年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	12.0	66.7
<全18問>	11.8	65.4
国語B(活用)	6.2	51.4
<全12問>	6.1	50.5
算数A(知識)	13.8	72.8
<全19問>	13.7	72.2
算数B(活用)	6.9	53.2
<全13問>	6.7	51.6

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識)	24.8	72.8
<全34問>	25.0	73.6
国語B(活用)	6.2	61.6
<全10問>	6.1	60.9
数学A(知識)	22.2	61.7
<全36問>	22.7	63.1
数学B(活用)	7.4	49.1
<全15問>	7.4	49.2

本県の平均正答率(全国比)の推移

※全国（公立）を100として、千葉県（公立）の結果を相対的に表した数値をもとにして作成している。
 ※平成31年度（令和元年度）からは、A、B問題を一体化して問われるため、独立したグラフで示している。



3 教科に関する調査結果

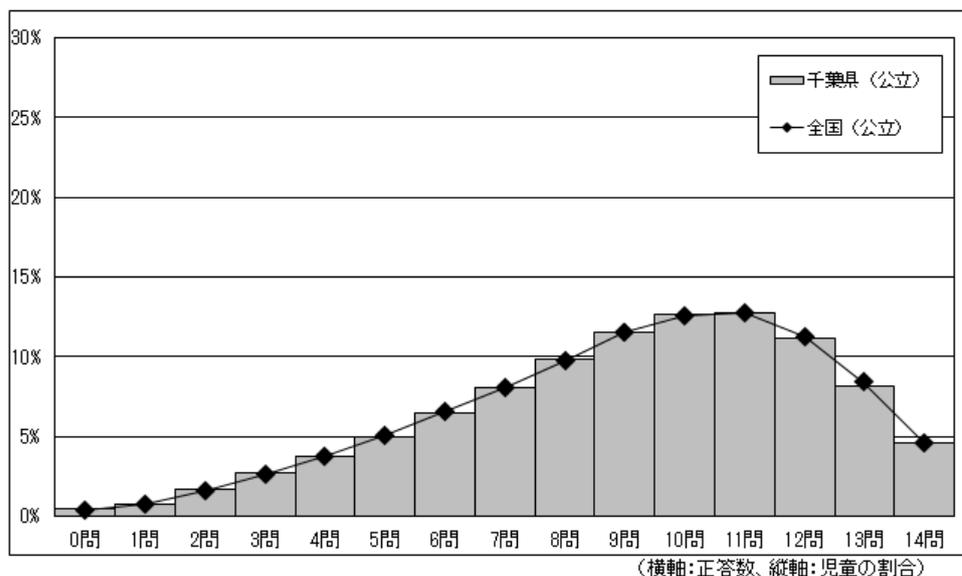
(1) 【小学校国語】

〈分類・区分別集計結果〉

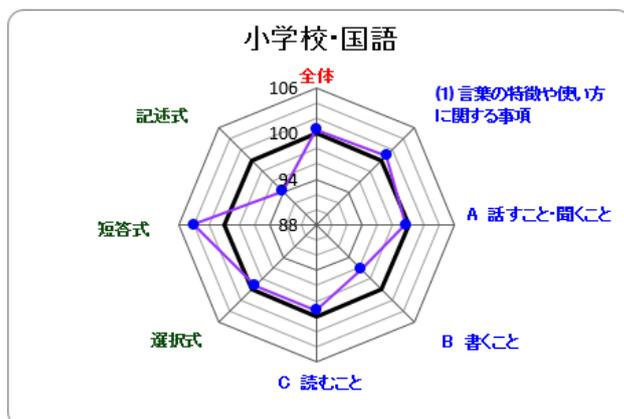
分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			千葉県(公立)	全国(公立)	
全体			14	65	64.7
学習 指要 領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	68.9	68.3
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0	—	—
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0	—	—
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	77.6	77.8
		B 書くこと	2	58.4	60.7
		C 読むこと	3	46.8	47.2
評価の観点	知識・技能	6	68.9	68.3	
	思考・判断・表現	8	61.3	62.1	
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—	
問題形式	選択式	8	71.2	71.7	
	短答式	3	73.4	70.6	
	記述式	3	37.9	40.2	

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	49,600	9.0 / 14	65	9.0	3.1
全国(公立)	993,975	9.1 / 14	64.7	9.0	3.1



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・国語		指数
全体(活用)		100.5
領域	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	100.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	
	A 話すこと・聞くこと	99.7
	B 書くこと	96.2
問題形式	C 読むこと	99.2
	選択式	99.3
	短答式	104.0
	記述式	94.3

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果のポイント〉

- 新学習指導要領で示された「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」を踏まえた「話すこと・聞くこと」に係る出題について、資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて、資料を使って話したりすることはできている。
- 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけて読むことについて、引き続き課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)					
		知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
		(1) 方言に築く関する事項や項目を使い	(2) 関係するの事項の扱い方に	(3) 文化が国に開する語事項	A 聞話すること・	B 書くこと	C 読むこと												
2三	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける					5・6ウ		○			○	33.0	34.4	-1.4	4.3	4.1	0.2		
2四	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する					3・4ウ		○			○	28.2	29.7	-1.5	5.9	5.5	0.4		
3一	自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える					5・6イ		○		○		64.3	64.8	-0.5	2.2	2.1	0.1		
3二	目的や意図に応じて、理由を明確にしなから、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する					5・6ウ		○			○	52.4	58.6	-4.2	10.1	9.6	0.5		
3三(1)ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6エ						○			○	65.1	54.4	10.7	11.7	14.4	-2.7		
3三(2)イ	文の中における主語と述語との関係を捉える	3・4カ						○			○	63.7	67.0	-3.3	3.8	3.8	0.0		
3三(2)オ	文の中における修飾と被修飾との関係を捉える	3・4カ						○			○	42.1	43.6	-1.5	4.0	4.1	-0.1		

- ※課題となる設問とした基準
- ・平均正答率 70%未満の設問
 - ・全国との差が 5%以上の設問
 - ・無解答率が 10%以上の設問

〈調査結果の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ 0.3 ポイント高い状況である。前回（平成 31 年度）の平均正答率は全国平均に比べ 0.8 ポイント低い状況であった。無解答率は概ね全国と同程度である。また、正答数の分布も全国の状況と同様である。

〈領域別〉

- 「B 書くこと」については、全国平均を 100 としたときの指数に比べ 3.8 ポイント低い状況である。
- 目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。（設問 2 三）
- 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。（設問 2 四）
- 目的や意図に応じて、理由を明確にしなから、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。（設問 3 二）
- 文の中における主語と述語との関係を捉えることに課題がある。（設問 3 三（2）イ）

〈問題形式別〉

- 「記述式」については、全国平均を 100 としたときの指数に比べ 5.7 ポイント低い状況であり、引き続き課題がある。

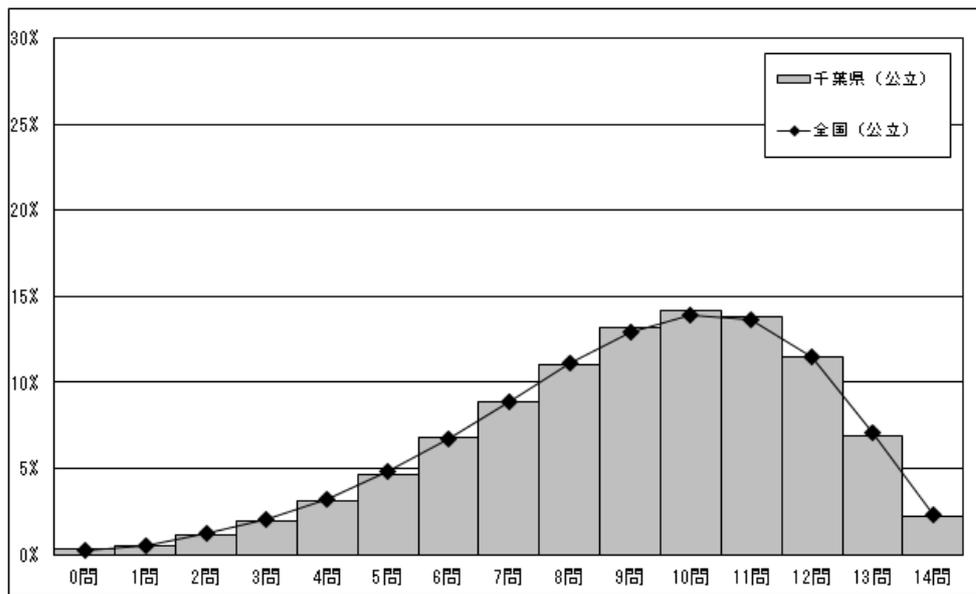
(2) 【中学校国語】

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		14	65	64.6
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	79.9	79.8
	書くこと	3	56.2	57.1
	読むこと	4	49.5	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	4	74.7	75.1
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	4	56.0	56.0
	話す・聞く能力	3	79.9	79.8
	書く能力	3	56.2	57.1
	読む能力	4	49.5	48.5
	言語についての知識・理解・技能	4	74.7	75.1
問題形式	選択式	6	64.5	63.9
	短答式	4	73.7	74.4
	記述式	4	56.0	56.0

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,577	9.1 / 14	65	9.0	2.8
全国(公立)	903,157	9.0 / 14	64.6	9.0	2.8



〈横軸:正答数、縦軸:生徒の割合〉

〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・国語		
全体(活用)		100.6
領域	話すこと・聞くこと	100.1
	書くこと	98.4
	読むこと	102.1
	伝統的な言語文化と国語の 特質に関する事項	99.5
問題 形式	選択式	100.9
	短答式	99.1
	記述式	100.0

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果のポイント〉

- 文章を読み、**登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできているが、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題**がある。
- 過年度の小学校調査においてみられた課題に関連した出題（H30A7）**全国の平均正答率 56.3%**において、**相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題**がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語的表現の活用	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語的表現の活用	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)
1三	話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える	1オ			○	○						○	57.2	57.1	0.1	4.1	3.4	0.7
2一	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く		2エ				○				○		23.4	24.8	-1.4	0.3	0.3	0.0
3一	文脈の中における語句の意味を理解する			1ア				○			○		45.2	43.7	1.5	0.4	0.4	0.0
3二	場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			1ウ				○			○		60.1	58.7	1.4	0.5	0.4	0.1
3四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ			1オ			○					○	21.7	20.5	1.2	26.1	24.1	2.0
4三	相手や場に応じて敬語を適切に使う				2(1)イ(ア)						○	○	37.4	40.3	-2.9	2.2	1.7	0.5
4四	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く		2ウ				○	○				○	72.1	71.9	0.2	10.0	9.7	0.3

- ※課題となる設問とした基準
- ・平均正答率 70%未満の設問
 - ・全国との差が 5%以上の設問
 - ・無解答率が 10%以上の設問

〈調査結果の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ 0.4 ポイント高い状況である。前回（平成 31 年度）の平均正答率は全国平均に比べ 0.8 ポイント低い状況であった。無解答率は概ね全国と同程度である。また、正答数の分布も全国の状況と同様である。

〈領域別〉

- 「**書くこと**」については、全国平均を 100 としたときの指数に比べ 1.6 ポイント低い状況である。
- 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題**がある。（設問 2 一）
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題**がある。（設問 3 四）
- 過年度の小学校調査においてみられた課題に関連した出題において、**相手や場に応じて敬語を適切に使うことに課題**がある。（設問 4 三）
- 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことに課題**がある。（設問 4 四）

〈問題形式別〉

○全国平均を 100 としたときの指数に比べ「**選択式**」については全国平均よりも 0.9 ポイント高い状況である。また、「**記述式**」については全国平均と同等であるが、「**短答式**」については全国平均よりも 0.9 ポイント低い状況である。

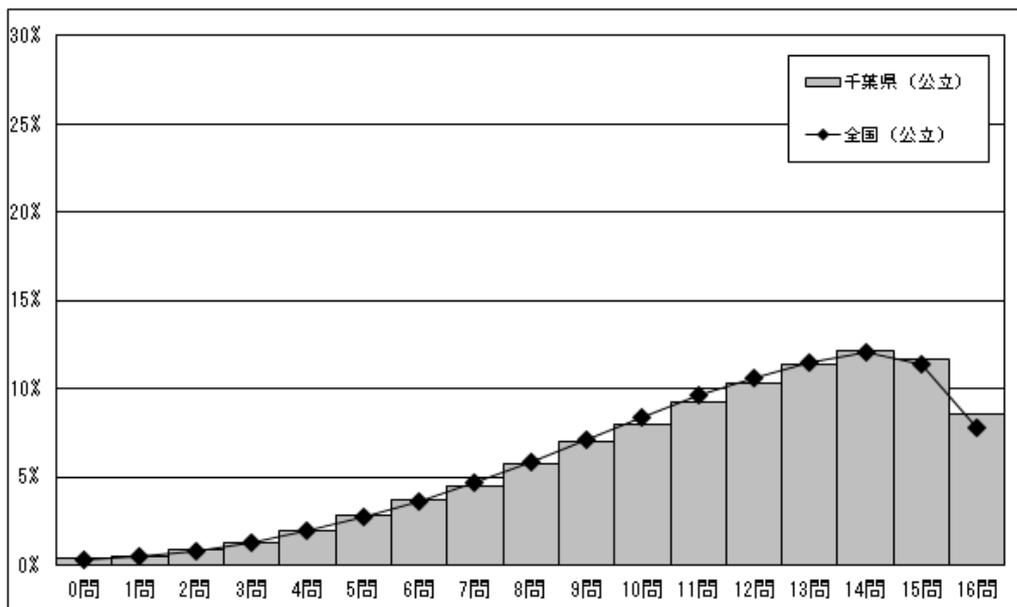
(3) 【小学校算数】

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	70	70.2
学習指導要領の 領域	A 数と計算	4	62.9	63.1
	B 図形	3	59.0	57.9
	C 測定	3	74.6	74.8
	C 変化と関係	3	76.3	75.9
	D データの活用	5	76.0	76.0
評価の観点	知識・技能	9	74.8	74.1
	思考・判断・表現	7	64.8	65.1
	主体的に学習に取り組む態度	0	—	—
問題形式	選択式	6	76.4	76.0
	短答式	6	76.5	75.8
	記述式	4	52.3	53.0

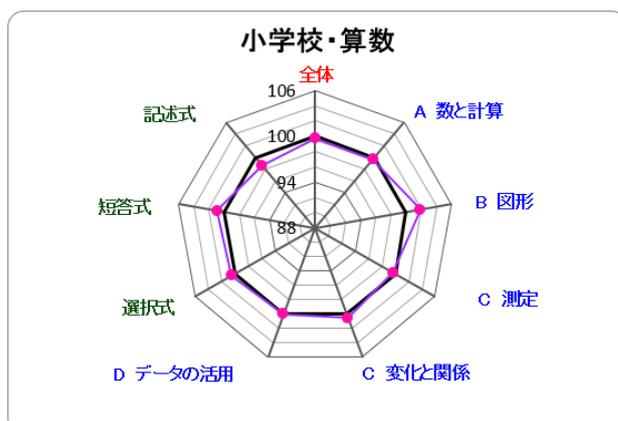
〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	49,592	11.3 / 16	70	12.0	3.5
全国(公立)	994,101	11.2 / 16	70.2	12.0	3.5



(横軸:正答数、縦軸:児童の割合)

〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・算数	
全体(活用)	99.7
A 数と計算	99.7
B 図形	101.9
C 測定	99.7
C 変化と関係	100.5
D データの活用	100.0
選択式	100.5
短答式	100.9
記述式	98.7

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果のポイント〉

- 速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことはできているが、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述することに課題がある。
- 「データの活用」の領域について、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度	問題形式 選択式 短答式 記述式	正答率(%)			無解答率(%)			
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用			千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	
1 (1)	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる	1(2) ア(イ) 3(2) ア(イ) ※		2(1) ア(ア)			○		○	60.6	62.5	-1.9	1.8	1.7	0.1
1 (3)	速さを求める除法の式と商の意味を理解している				5(2) ア(ア)	○		○	56.3	55.8	0.5	1.6	1.4	0.2	
2 (1)	三角形の面積の求め方について理解している		5(3) ア(ア)			○		○	57.7	55.1	2.6	1.6	1.6	0.0	
2 (3)	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる		5(3) ア(ア) ※			○		○	45.4	46.0	-0.6	4.8	4.6	0.2	
3 (3)	データを二次元の表に分類整理することができる				4(1) ア(ア)	○		○	67.7	67.5	0.2	1.9	1.7	0.2	
3 (4)	帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる				5(1) ア(ア) ※	○		○	51.7	52.0	-0.3	11.4	10.3	1.1	
4 (2)	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる	4(4) ア(イ)				○		○	56.2	55.5	0.7	2.0	2.0	0.0	
4 (3)	小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる	4(4) ア(ア) ※				○		○	51.7	51.5	0.2	11.7	10.3	1.4	

※本設問においては、思考力、判断力、表現力等をみるために用いる知識及び技能を示している。

- ※課題として取り上げた基準
 - ・平均正答率 70%未満の設問
 - ・全国との差が 5%以上の設問
 - ・無解答率が 10%以上の設問

〈調査結果の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ 0.2 ポイント低い状況である。前回(平成 31 年度)の平均正答率は全国平均に比べ 0.6 ポイント低い状況であった。

〈領域別〉

- 「**A 数と計算**」の領域について、二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述することに課題がある。(設問 1 (1))
- 「**B 図形**」の領域について、複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述することに課題がある。(設問 2 (3))
- 「**D データの活用**」の領域について、帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することに課題がある。(設問 3 (4))
- 「**A 数と計算**」の領域について、小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を 1 としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することに課題がある。(設問 4 (3))

〈問題形式別〉

- 「**記述式**」については、全国平均を 100 としたときの指数に比べ 1.3 ポイント低い状況である。

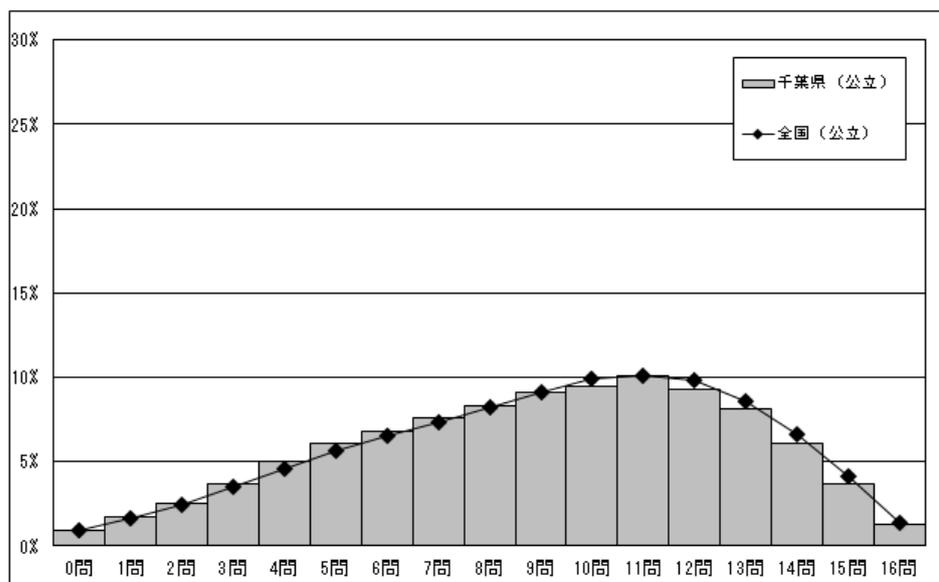
(4) 【中学校数学】

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	56	57.2
学習指導要領の 領域	数と式	5	64.0	64.9
	図形	4	51.1	51.4
	関数	3	55.0	56.4
	資料の活用	4	51.8	53.8
評価の観点	数学への関心・意欲・態度	0	—	—
	数学的な見方や考え方	7	40.4	41.1
	数学的な技能	3	76.2	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	6	64.2	65.6
問題形式	選択式	2	51.3	52.4
	短答式	9	69.4	70.5
	記述式	5	33.8	35.0

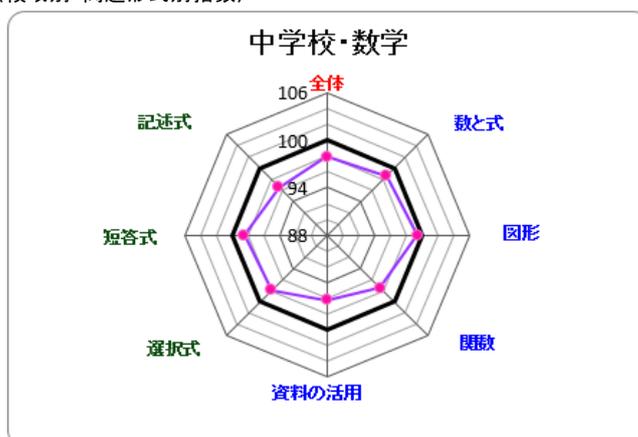
〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,574	9.0 / 16	56	9.0	3.7
全国(公立)	903,253	9.1 / 16	57.2	10.0	3.7



〈横軸:正答数、縦軸:生徒の割合〉

〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・数学		
	全体(活用)	97.9
領域	数と式	98.6
	図形	99.4
	関数	97.5
	資料の活用	96.3
問題形式	選択式	97.9
	短答式	98.4
	記述式	96.6

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果のポイント〉

- 「関数」の領域について、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。
- データに基づいて事象を考察する場面において、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点						正答率(%)			無解答率(%)			
		数と式	図形	関数	資料の活用	意図・態度	数学への関心・考え	数学的な見方や態度	数学的な技能・理解	数量や図形などについての知識	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)
3	扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している		1(2)ウ										68.4	68.1	0.3	0.4	0.3	0.1
4	関数の意味を理解している			1(1)ア									46.3	48.0	-1.7	11.5	9.3	2.2
6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1)イ、ウ						○					60.2	61.8	-1.6	17.3	15.4	1.9
6(3)	数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる	2(1)イ、ウ						○					29.5	30.3	-0.8	35.0	29.9	5.1
7(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1)エ、オ				○					25.2	27.7	-2.5	28.6	24.7	3.9
8(2)	相対度数の必要性と意味を理解している			1(1)ア					○	○			34.2	36.8	-2.6	1.1	1.0	0.1
8(3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1)イ				○					10.3	11.1	-0.8	37.5	32.2	5.3
9(1)	平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる	2(2)イ、ウ						○					43.9	44.3	-0.4	3.8	3.6	0.2
9(2)	隣角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している	2(1)ア							○	○			63.1	64.3	-1.2	15.5	14.2	1.3
9(3)	ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる	2(1)ア						○					28.9	28.8	0.1	32.8	28.7	4.1

※課題として取り上げた基準 ・平均正答率70%未満の設問
 ・全国との差が5%以上の設問
 ・無解答率が10%以上の設問

〈調査結果の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ1.2ポイント低い状況である。前回(平成31年度)の平均正答率は全国平均に比べ1.8ポイント低い状況であった。他の教科調査に比べ全国平均との差が一番大きい。また、無解答率も高い。

〈領域別〉

- 「資料の活用」については、全国平均を100としたときの指数に比べ3.7ポイント低い状況である。
- 「数と式」の領域について、数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題がある。(設問6(3))
- 「関数」の領域について、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(設問7(2))
- 「資料の活用」の領域について、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(設問8(3))
- 「図形」の領域について、ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することに課題がある。(設問9(3))

〈問題形式別〉

- 「記述式」については、全国平均を100としたときの指数に比べ3.4ポイント低い状況である。

4 質問紙に関する調査結果（児童生徒、学校）

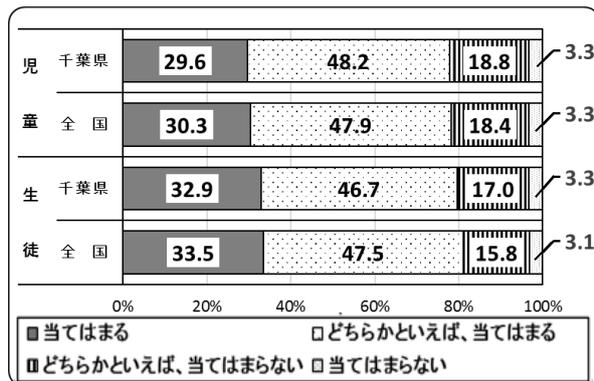
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に肯定的に回答した割合は、児童 77.8%、生徒 79.6%で、児童生徒ともに前回の調査よりその割合は増加している。回答結果と正答率の関連をみると、肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い傾向がみられた。【児童生徒質問紙 3 3】
- 「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」の質問に対して、小学校では、回答結果と正答率に相関はみられないが、中学校では、肯定的に回答した学校ほど各教科の平均正答率が高い傾向がみられた。【学校質問紙 2 9】
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか」の質問に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」と回答した割合は、小学校 75.6%、中学校 35.5%で、前回の調査よりもその割合が大きく増加した。【学校質問紙 4 0】

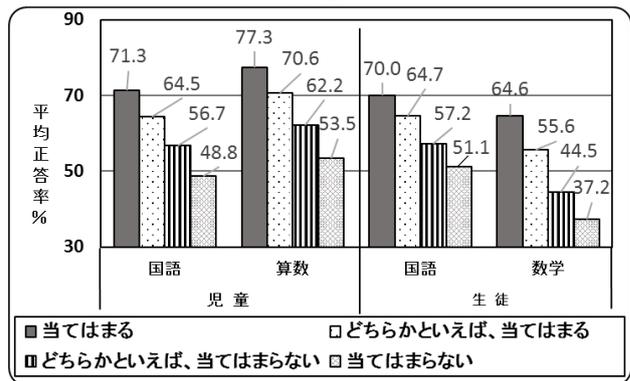
※ いずれのグラフも、「その他」、「無回答」の数値は表示していない。

【児童生徒質問紙 3 3】 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

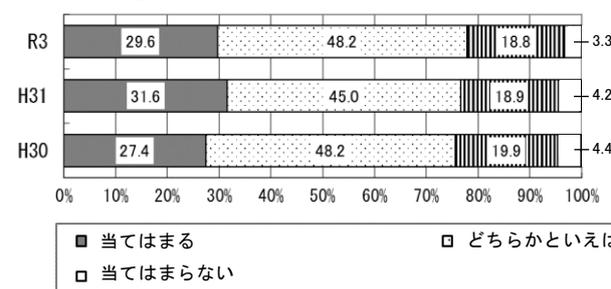
〈全国との比較〉



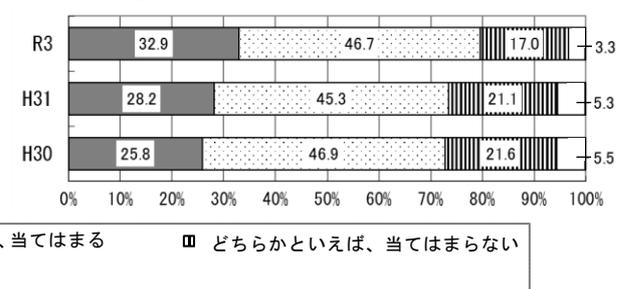
〈回答結果と正答率の関連〉



〈経年変化_児童〉

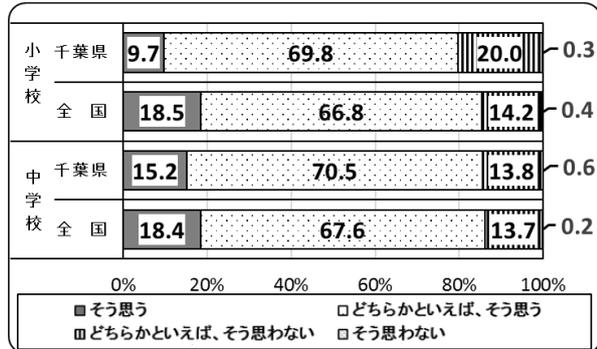


〈経年変化_生徒〉

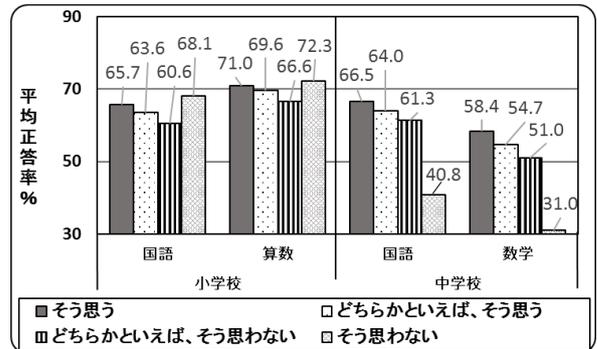


【学校質問紙 2 9】 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

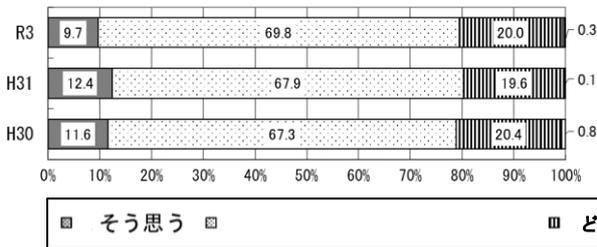
〈全国との比較〉



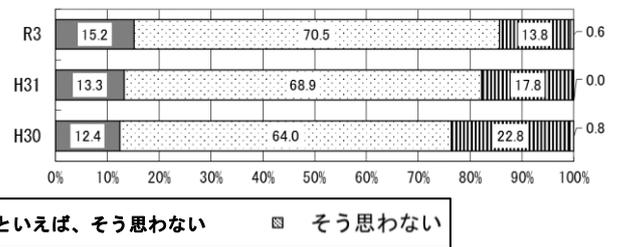
〈回答結果と正答率の関連〉



〈経年変化_小学校〉

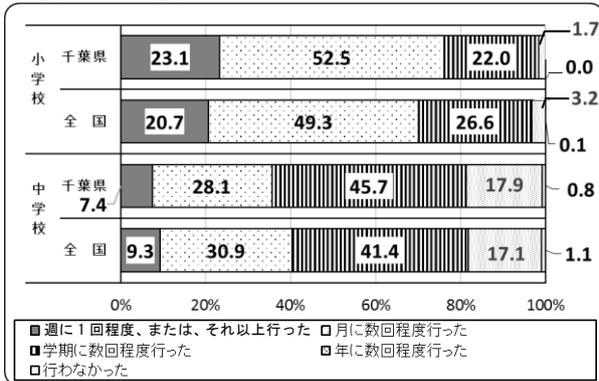


〈経年変化_中学校〉

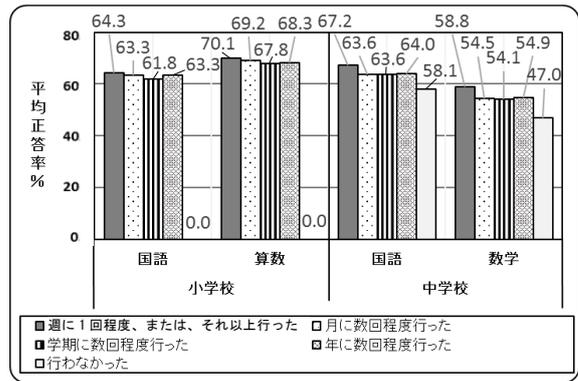


【学校質問紙 4 0】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか

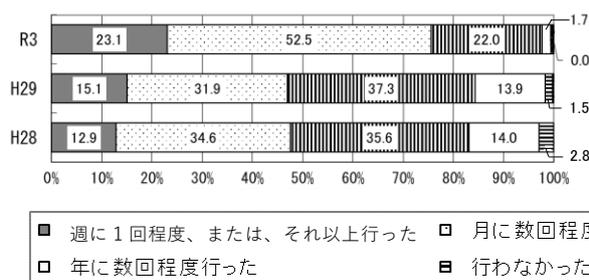
〈全国との比較〉



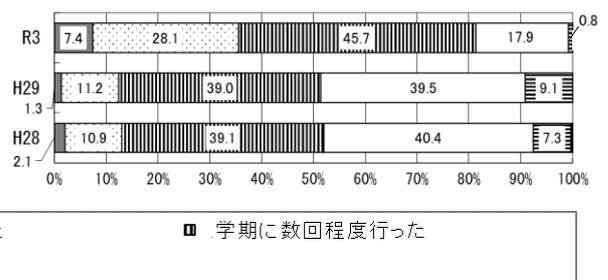
〈回答結果と正答率の関連〉



〈経年変化_小学校〉



〈経年変化_中学校〉

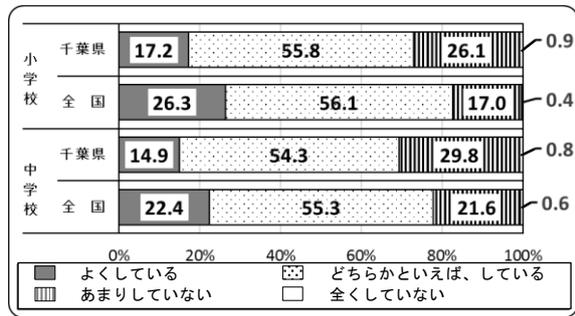


主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

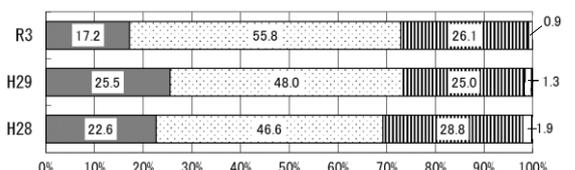
- 「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか」の質問に対して、小学校 73.0%、中学校 69.2%が「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答している。全国では小学校 82.4%、中学校 77.7%の学校で校内研修が行われていると回答していることから、校内研修の充実が求められる。【学校質問紙 2 4】
- 「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」の質問に小学校 81.4%、中学校 78.8%が肯定的に回答しており、学習活動のなかで課題解決に取り組んでいる。特に、中学校では、肯定的な回答が増加してきている。【学校質問紙 3 4】
- 「調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に肯定的に回答している児童生徒の割合は増加している。特に中学校では、81.2%が肯定的に回答している。また、回答結果と正答率の関連をみると、小学校、中学校ともに肯定的に回答している学校ほど正答率が高くなっている。【学校質問紙 3 2】
- 「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対して、全国では児童 78.8%、生徒 77.8%が肯定的に回答している。千葉県では肯定的に回答している児童は 76.9%、生徒は 76.0%であり、全国より低くなっている。【児童生徒質問紙 3 7】

【学校質問紙 2 4】 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか

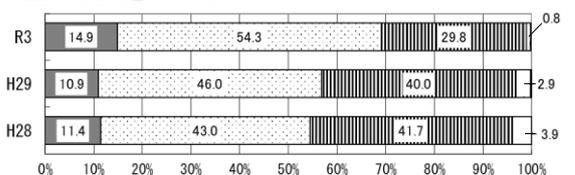
〈全国との比較〉



〈経年変化_小学校〉

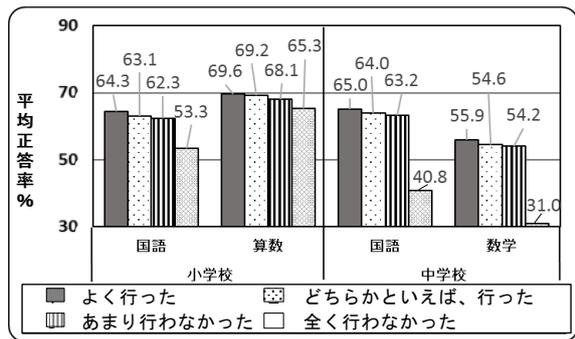


〈経年変化_中学校〉

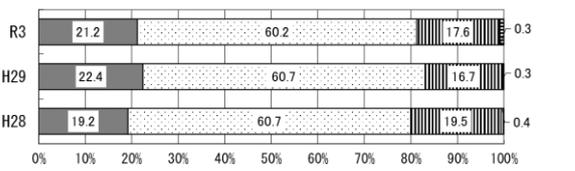


【学校質問紙 3 4】 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

〈回答結果と正答率の関連〉



〈経年変化_小学校〉

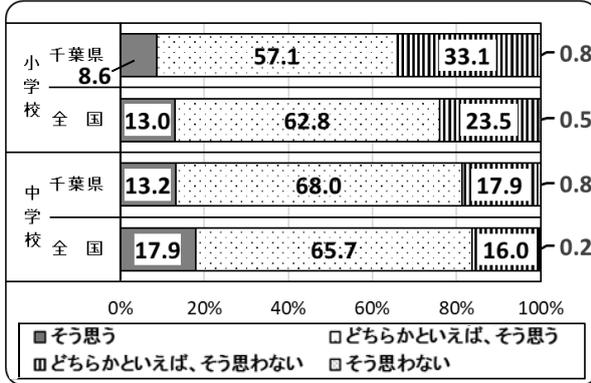


〈経年変化_中学校〉

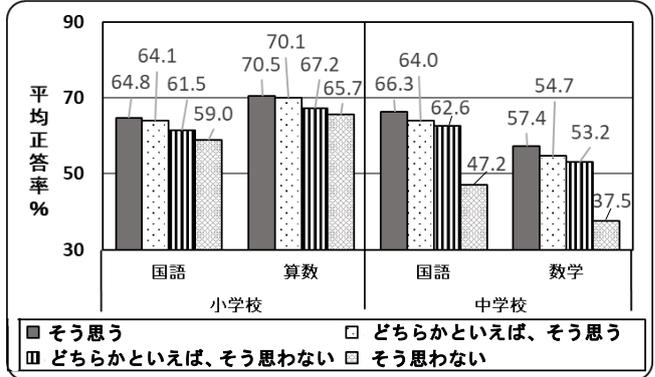


【学校質問紙32】 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

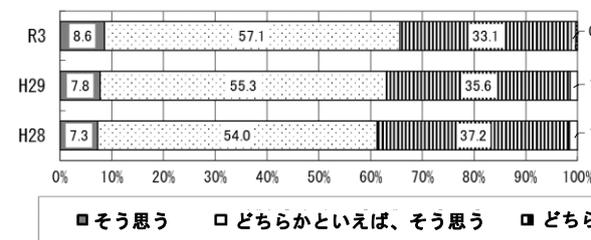
〈全国との比較〉



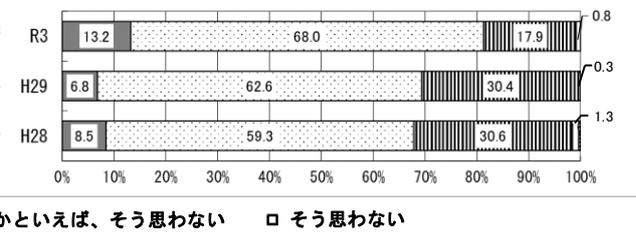
〈回答結果と正答率の関連〉



〈経年変化_小学校〉

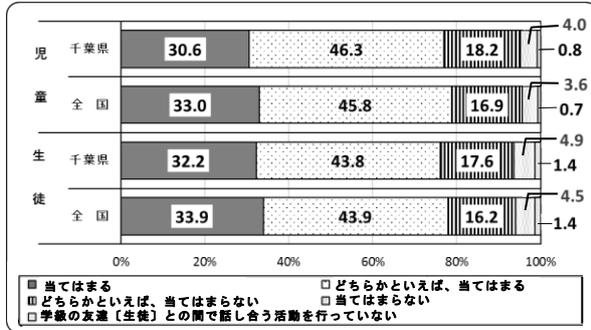


〈経年変化_中学校〉

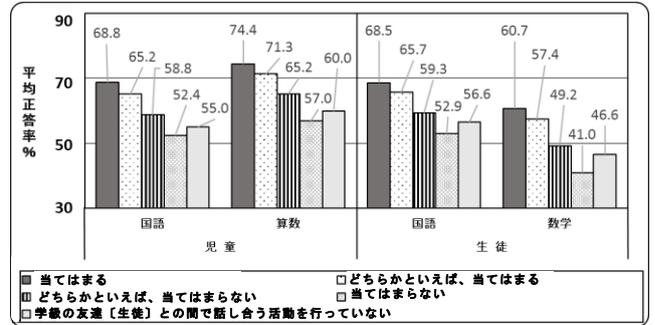


【児童生徒質問紙37】 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

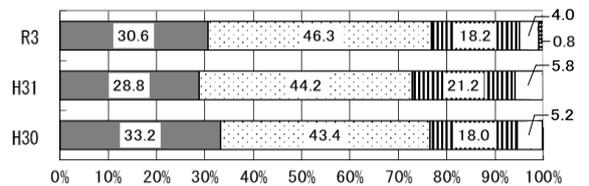
〈全国との比較〉



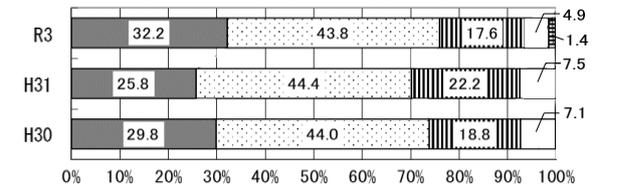
〈回答結果と正答率の関連〉



〈経年変化_児童〉



〈経年変化_生徒〉



■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない □ 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○個に応じた指導（個別最適な学び）の状況について、「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、児童が79.8%、生徒が70.8%であった。 【児童生徒質問紙35】

○「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問と「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」の質問を合わせてみると、「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した割合が、高くなっている。

【児童生徒質問紙35】【児童生徒質問紙17】

○「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問と「国語、算数・数学の勉強は好きですか」の質問を合わせてみると、「前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、「国語、算数・数学の勉強は好きである」と回答した割合が高くなっている。

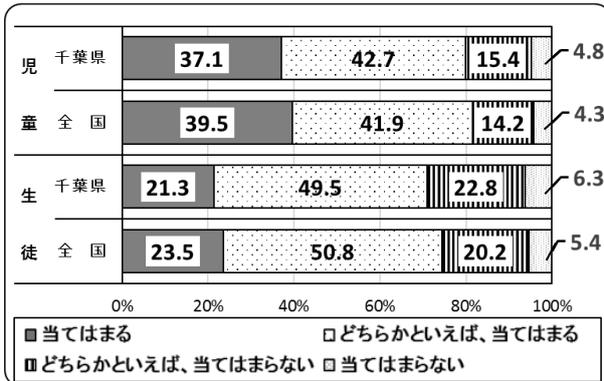
【児童生徒質問紙35】【児童生徒質問紙43】

【児童生徒質問紙35】【児童生徒質問紙52】

【児童生徒質問紙35】

前年度までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

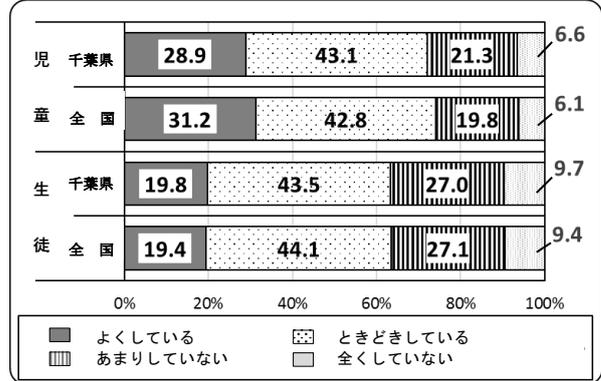
〈全国との比較〉



【児童生徒質問紙17】

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）

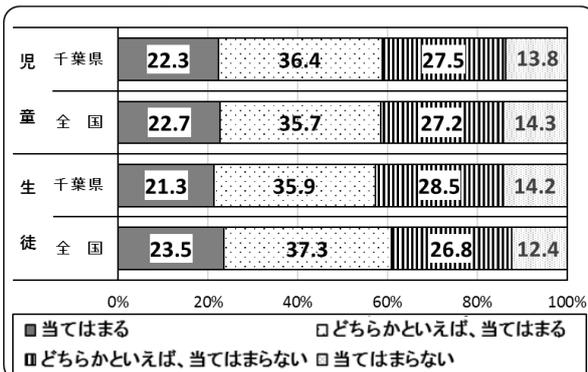
〈全国との比較〉



【児童生徒質問紙43】

国語の勉強は好きですか

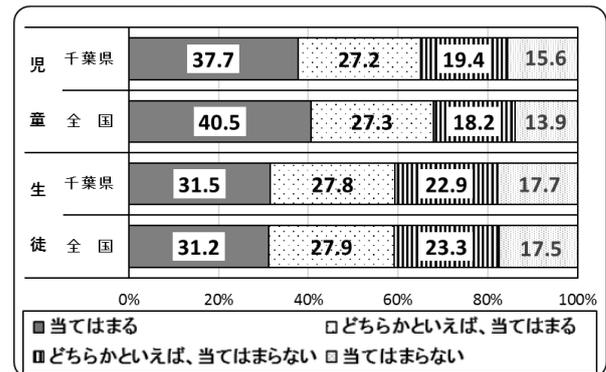
〈全国との比較〉



【児童生徒質問紙52】

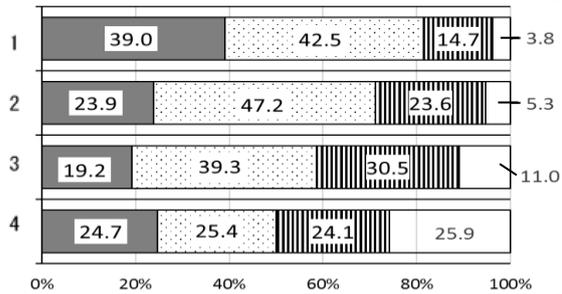
算数・数学の勉強は好きですか

〈全国との比較〉

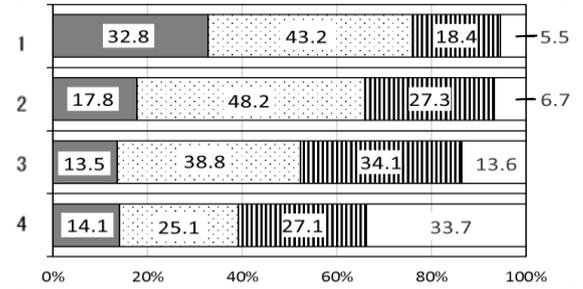


[クロス集計] 縦軸：【児童生徒質問紙 3 5】 横軸：【児童生徒質問紙 1 7】

〈児童〉



〈生徒〉

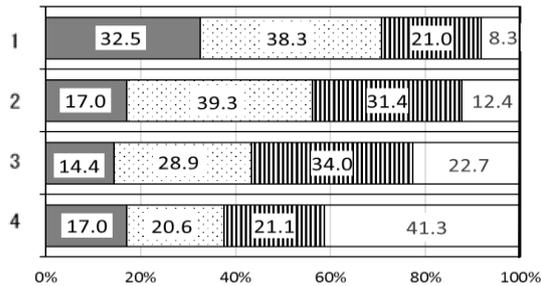


縦軸： 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

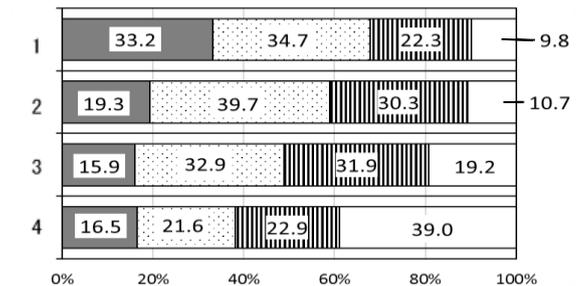
横軸： ■ よくしている □ ときどきしている
▨ あまりしていない □ 全くしていない

[クロス集計] 縦軸：【児童生徒質問紙 3 5】 横軸：【児童生徒質問紙 4 3】

〈児童〉



〈生徒〉

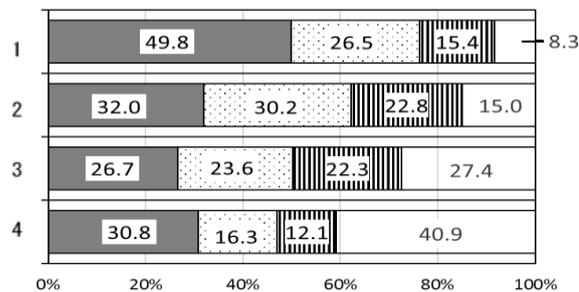


縦軸： 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

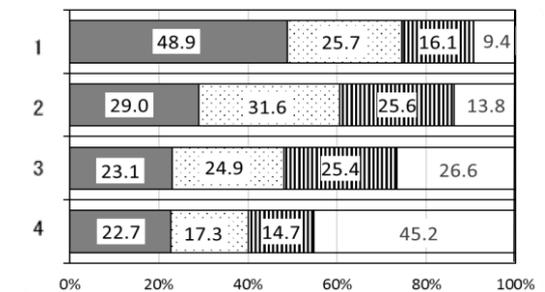
横軸： ■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
▨ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

[クロス集計] 縦軸：【児童生徒質問紙 3 5】 横軸：【児童生徒質問紙 5 2】

〈児童〉



〈生徒〉



縦軸： 1 当てはまる 2 どちらかといえば、当てはまる
3 どちらかといえば、当てはまらない 4 当てはまらない

横軸： ■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
▨ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度）

○ICTを活用した授業の頻度は、年々増加している。「前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか」の質問に対して、「ほぼ毎日」と回答した中学校の割合は、51.8%であった。

【学校質問紙66】

○児童生徒への「前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対して、「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した割合は、前回の調査に比べ、児童は10.2%、生徒は3.1%増加した。

【児童生徒質問紙26】

○「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問に「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答している児童の割合は、34.9%、生徒の割合は、30.0%であった。

【児童生徒質問紙27】

○「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に「役に立つと思う」「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答している割合は、児童94.8%、生徒92.8%と高くなっている。

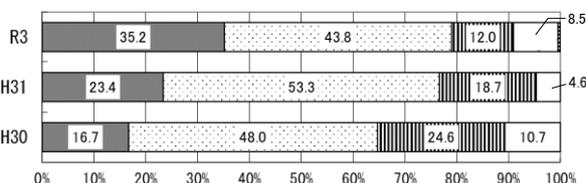
【児童生徒質問紙28】

○「あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童生徒がやりとりする場面」の質問に対して、「よく活用している」「どちらかといえば活用している」と回答している全国の割合は、小学校44.7%、中学校41.5%である。一方、千葉県では小学校34.3%、中学校33.0%となっている。

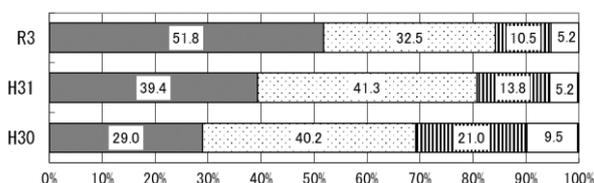
【学校質問紙71】

【学校質問紙66】前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業を、1クラス当たりどの程度行いましたか

〈経年変化_小学校〉



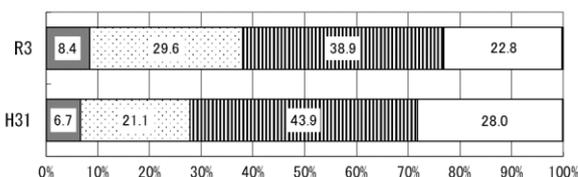
〈経年変化_中学校〉



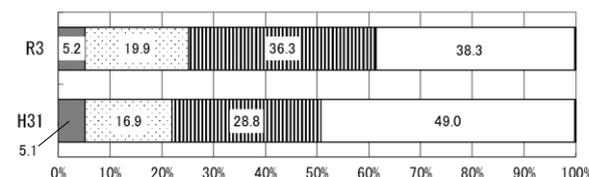
■ ほぼ毎日 ▨ 週1回以上 ▤ 月1回以上 □ 月1回未満

【児童生徒質問紙26】前年度までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか

〈経年変化_児童〉



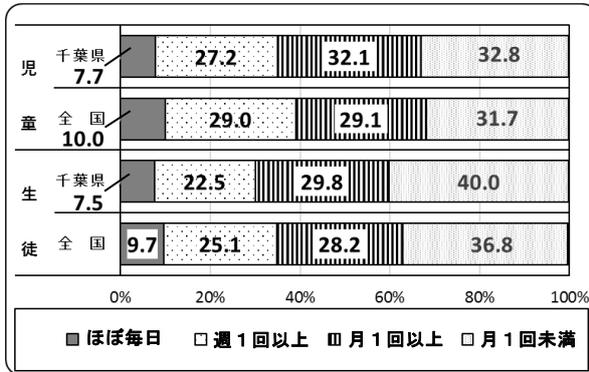
〈経年変化_生徒〉



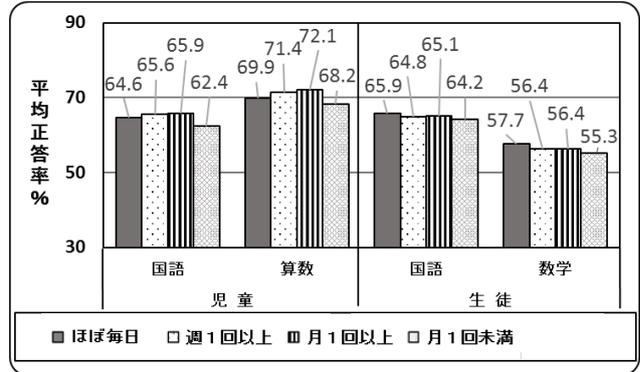
■ ほぼ毎日 ▨ 週1回以上 ▤ 月1回以上 □ 月1回未満

【児童生徒質問紙 27】あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか

〈全国との比較〉

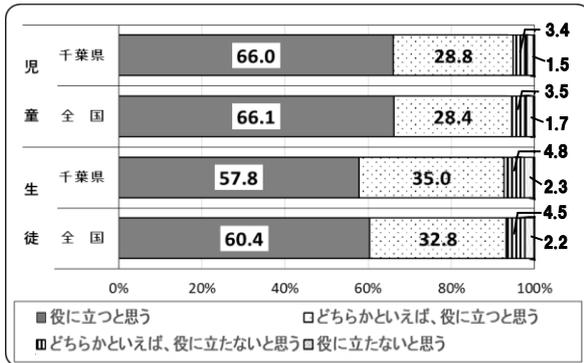


〈回答結果と正答率の関連〉

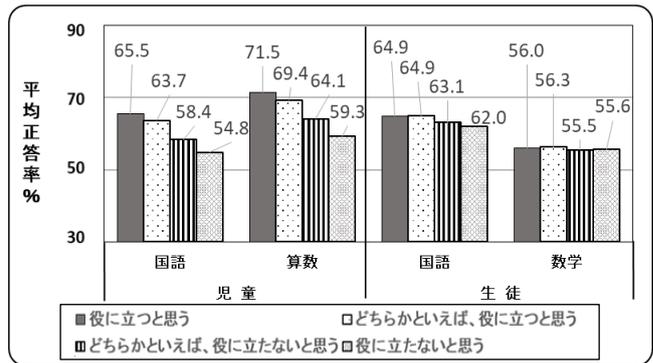


【児童生徒質問紙 28】学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか

〈全国との比較〉

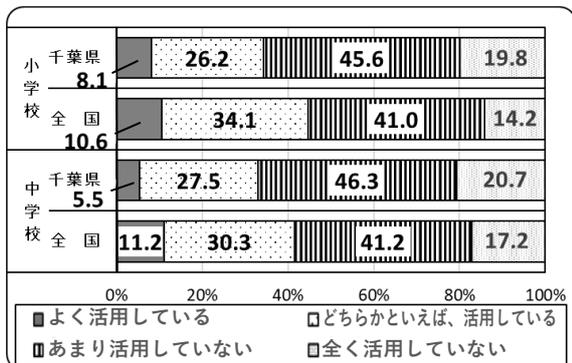


〈回答結果と正答率の関連〉

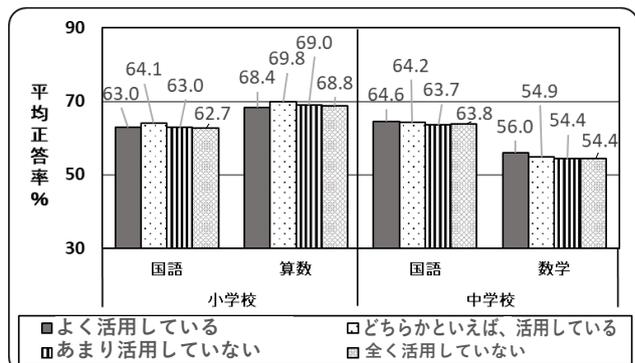


【学校質問紙 71】あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童生徒がやりとりする場面

〈全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連〉



ICTを活用した学習状況（ICTを用いた学習時間等）

○「あなたの学校では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」の質問に「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」と回答している全国の割合は、小学校6.6%、中学校8.6%である。千葉県では、小学校2.4%、中学校3.1%であり、活用が望まれる。

【学校質問紙75】

○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の質問に対して、児童生徒の回答で一番割合が高いのは全国、千葉県ともに「30分より少ない」である。また、千葉県では「全く使っていない」と回答している割合は、児童が19.5%、生徒が18.8%である。

【児童生徒質問紙29】

○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」の質問について、テレビゲームをしている時間は児童生徒ともに増加している。千葉県では、1日当たり1時間以上テレビゲームをしていると回答している割合は、児童が75.6%、生徒が80.1%である。

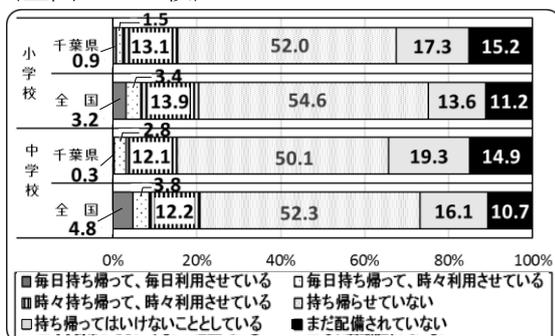
【児童生徒質問紙5】

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の質問について、児童は大きな変化がみられないが、生徒は2時間以上勉強している割合が増加している。

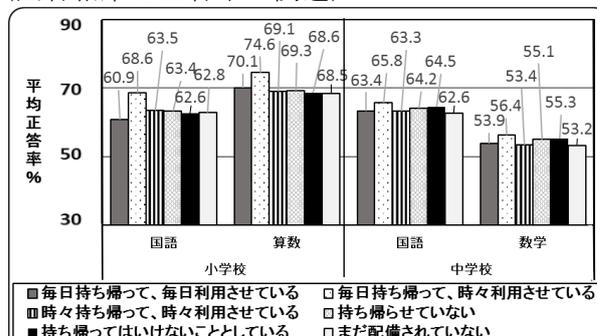
【児童生徒質問紙18】

【学校質問紙75】 あなたの学校では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

〈全国との比較〉

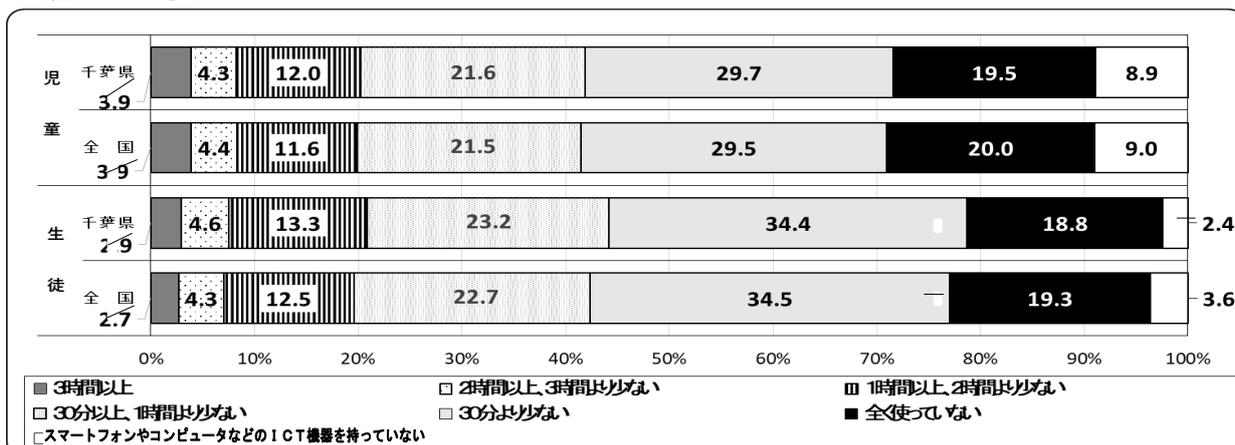


〈回答結果と正答率の関連〉



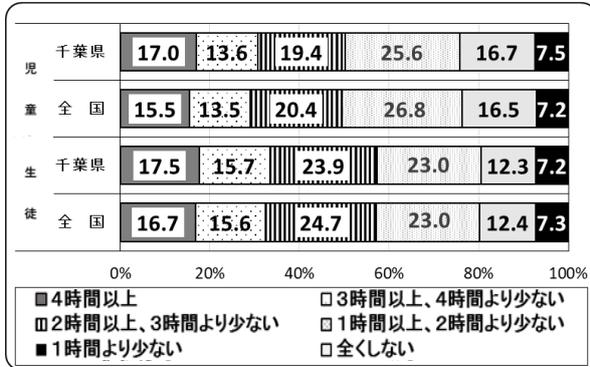
【児童生徒質問紙29】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか

〈全国との比較〉

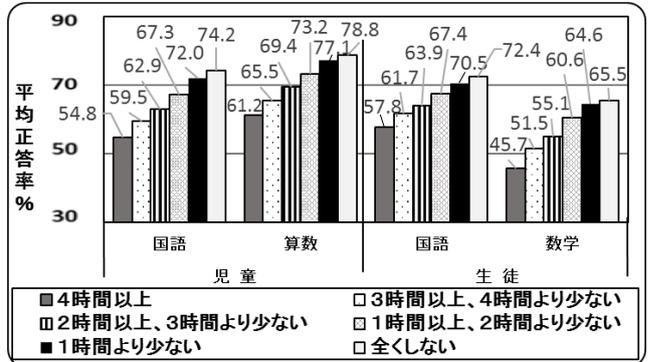


【児童生徒質問紙5】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

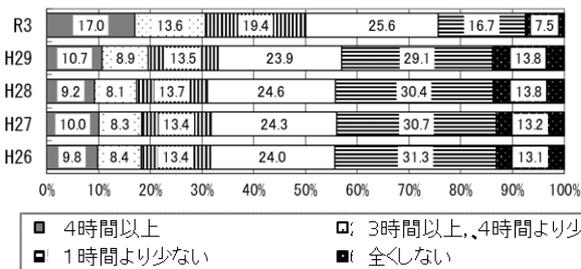
〈全国との比較〉



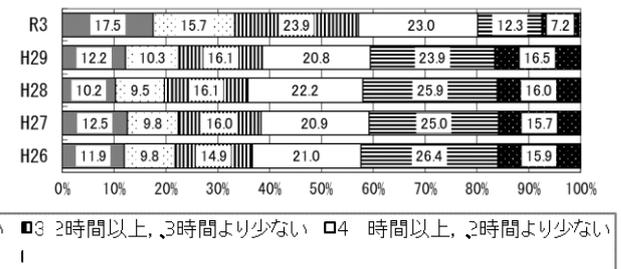
〈回答結果と正答率の関連〉



〈経年変化_児童〉

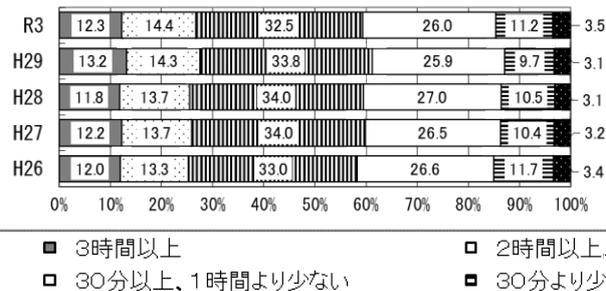


〈経年変化_生徒〉

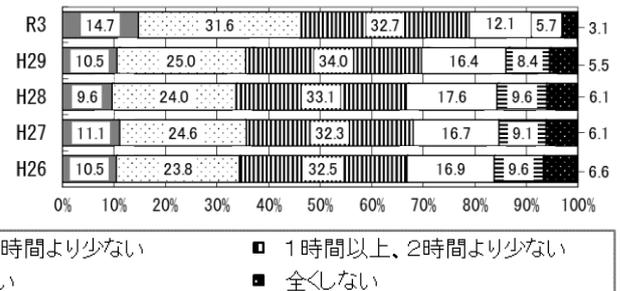


【児童生徒質問紙18】 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

〈経年変化_小学校〉



〈経年変化_中学校〉



○「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか」の質問に対して、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答している割合は、千葉県では、小学校57.8%、中学校55.4%である。【学校質問紙69】

○「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか」と「あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童がやりとりする場面」の質問を合わせてみると、「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか」の質問に肯定的に回答した小学校、中学校ほど、「ICT機器を活用して、教職員と児童生徒がやりとりをしている」と回答した割合が高くなっている。

【学校質問紙69】【学校質問紙71】

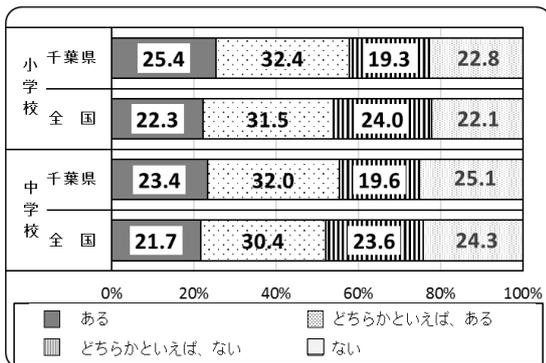
【学校質問紙69】

コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか

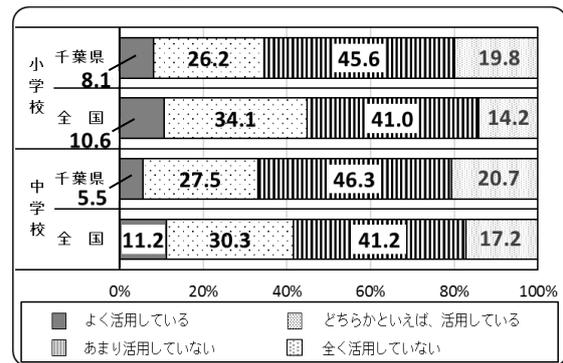
【学校質問紙71】

あなたの学校では、次のようなコンピュータなどのICT機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童生徒がやりとりする場面

〈全国との比較〉

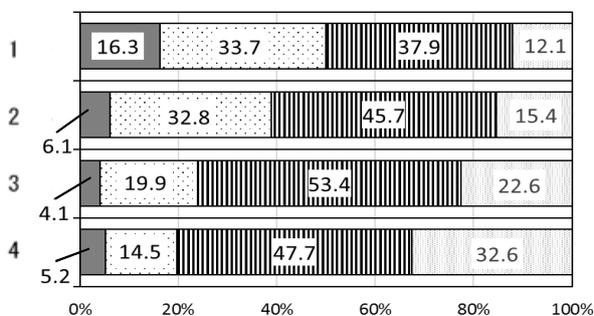


〈全国との比較〉

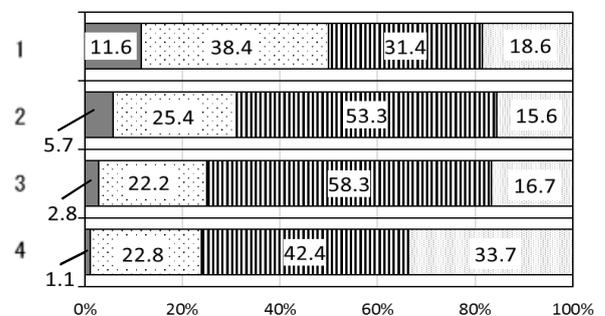


〔クロス集計〕 縦軸：【学校質問紙69】 横軸：【学校質問紙71】

〈小学校〉



〈中学校〉



縦軸： 1 ある 2 どちらかといえば、ある
3 どちらかといえば、ない 4 ない

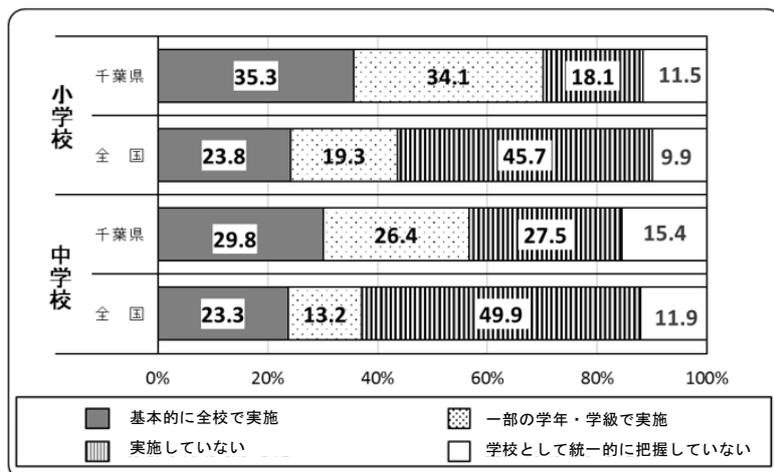
横軸： ■ よく活用している ■ どちらかといえば、活用している
▨ あまり活用していない □ 全く活用していない

臨時休校時の学習

○「C1-1 の期間のうち学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑧都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習」の質問に、「基本的に全校で実施」「一部の学年・学級で実施」と肯定的に回答した割合は、全国の小学校 43.1%、中学校 36.5%に対して、千葉県は小学校 69.4%、中学校 56.2%であり、全国に比べ高い状況である。 【学校質問紙 C 2 - 8】

【学校質問紙 C 2 - 8】 C1_1 の期間のうち学校の全部を休業していた期間中、家庭学習としてどのようなものを課していましたか ⑧都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習

〈全国との比較〉



＜参考＞ 学校質問紙調査 C 1 - 1

令和 2 年 4 月以降の新型コロナウイルス感染症の影響による地域一斉の学校の臨時休業等（短縮授業・分散登校を含み、春季休業を含まない。また、学校全面再開後に感染者が発生したなどの理由により個別に行われた臨時休業等は含まない。）について、以下に当てはまる期間及び日数をお答えください。

（臨時休業が 2 週間にわたって行われていた場合には最も長い臨時休業等についてお答えください。）

（1）学校の臨時休業等

（回答） （ ）月（ ）日から（ ）月（ ）日まで

記述を取り入れた授業×教科に関する調査

- 国語科の指導方法に関する調査のうち、学校質問紙53の質問に対して、小学校、中学校共に、肯定的に回答した学校ほど、平均正答率が高い傾向にある。【学校質問紙53】
- 「調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行いましたか」の質問に、小学校では、肯定的に回答した学校ほど、平均正答率が高い傾向にある。中学校では、工夫してノートを書く指導に取り組んだ学校のうち、「よく行った」「どちらかといえば、行った」「あまり行わなかった」と回答した学校の結果のみで比較すると、工夫してノートを書く指導を行ったと回答した学校ほど、平均正答率が高い傾向にある。【学校質問紙60】

【小学校学校質問紙53】 調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか

【中学校学校質問紙53】 調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか

〈回答結果と正答率の関連〉

小学校

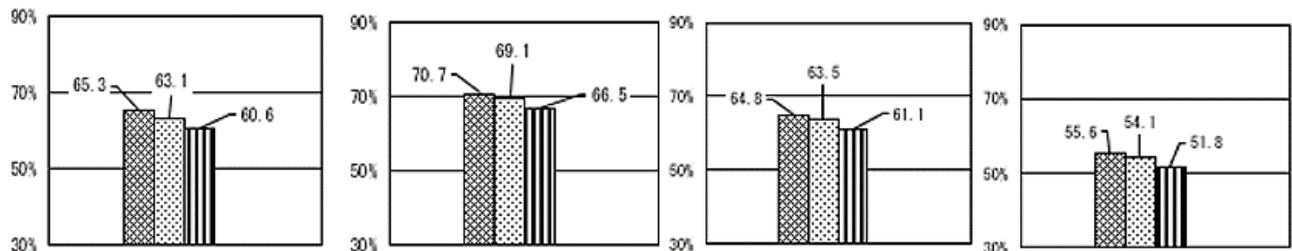
中学校

国語

算数

国語

数学



■ よく行った □ どちらかといえば、行った ▨ あまり行わなかった ▩ 全く行わなかった

【学校質問紙60】 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行いましたか

〈回答結果と正答率の関連〉

小学校

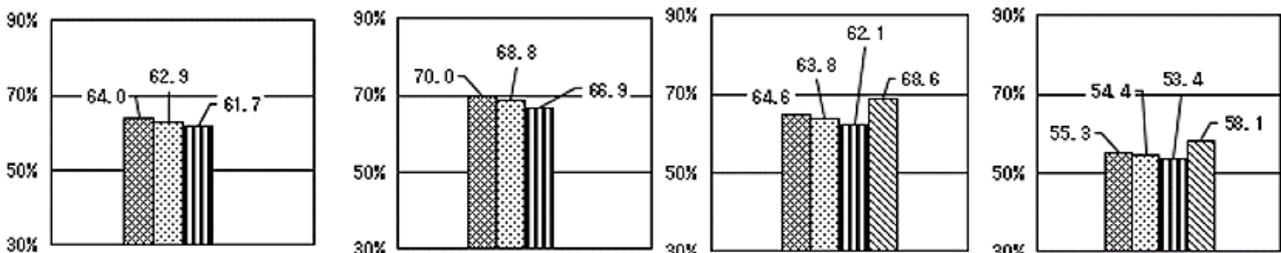
中学校

国語

算数

国語

数学



■ よく行った □ どちらかといえば、行った ▨ あまり行わなかった ▩ 全く行わなかった

<参考> 本年度の主な変更点

○調査日程の変更

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、約1か月先送りした令和3年5月27日（木）へ変更。
- ・後日実施の期間は、令和3年5月28日（金）から6月30日（水）までの約1か月間となります。

○経年変化分析調査及び保護者に対する調査（抽出方式）の実施

- ・経年変化分析調査及び保護者に対する調査の調査対象校が統一され、3年に一度程度の実施を予定しています。

経年変化分析調査

- ・平成25、28年度に続き3回目の実施となります。
- ・文部科学省が調査対象として抽出した国・公・私立学校において本体調査を実施した学校の児童生徒を対象に、令和3年6月1日（火）から6月30日（水）の期間中、調査の対象となった学校が実施可能な日時での実施となります。
- ・中学校の調査教科に新たに英語を追加し、英語実施校のみ、英語教科に関する生徒質問紙・学校質問紙調査も併せて実施します。
- ・対象となった学校では、国語、算数・数学、英語（中学校）のうち、いずれか1教科が指定され実施します。

保護者に対する調査

- ・本体調査及び経年変化分析調査を実施した学校の、児童生徒の保護者を対象に、令和3年6月1日（火）から6月30日（水）までの期間中、調査の対象となった学校が実施可能な期間での実施となります（経年変化分析調査と同時期に保護者に対する調査票を配付し、回答のための期間として2週間程度を設け、回収）。

○文部科学省提供資料については、国立教育政策研究所のWebページから入手できます。
[<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>]